

世界に誇る古典芸能を広めたい 高校生が地域への思いを込め作る

川根高校に通う生徒たちはお世話になった徳山地域のために何が出来るかを考え、自分たちのアイデアで「徳山の盆踊」をPRしようと活動をスタート。約1年間に
およんだ生徒たちの奮闘を追いかけました。

徳山の盆踊のために 何が出来るのか

川根高校では、生徒が川根地域を探究し、その魅力や課題を発見しながら、自身の学びにつなげる学校独自の教科「地生学」を取り入れています。今年、その地生学で、三年生5人が徳山区の伝統芸能を後世に継承するためにさまざまな活動に取り組みました。

5人の生徒は皆、徳山区以外の出身。そのうち3人は町外からの川根留学生です。「私は伝統芸能を知らずに育ったので、保存会の人たちの『継承』に対する想いは計り知れません。ですが学校生活を支えてくれた徳山の人たちに恩返しをしたい」。そう話すのは若者交流センター奥流で寄宿生活を送った鈴木秀人さん(掛川市)。鈴木さんら5人は、徳山の古典芸能の現状を知り、自分たちと同じように芸能自体を知らない世代への発信を目的に、動画制作と町の特産であるお茶で染めたのれんを製作することを決めました。

悩む生徒たち 新しい出会いで実現へ前進

しかし、生徒たちは動画制作に関して何の知識も技術もありません。悩む生徒たちに、同校魅力化コーディネーターの伊神花織さんが働きかけ、本町出身で、現在は都内で映像制作を学び、ふるさとの地方創生を模索していた大久保榛菜さんに引き合わせました。地生学の趣旨や生徒の思いを聞いた大久保さんは、川根高校からの講師の依頼を快く引き受けたのです。

ネーターの伊神花織さんが働きかけ、本町出身で、現在は都内で映像制作を学び、ふるさとの地方創生を模索していた大久保榛菜さんに引き合わせました。地生学の趣旨や生徒の思いを聞いた大久保さんは、川根高校からの講師の依頼を快く引き受けたのです。

保存会の思いを形に 5人の挑戦が始まる

6月初旬、大久保さんを交えて、早速動画制作が始まりました。「川根本町の魅力はお茶畑じゃない?」「迷子になった鹿が神社にたどり着くストーリーはどう?」など、次から次へとアイデアが生まれる生徒たち。そんな生徒たちの姿に大久保さんは「初めは大人しいという印象で主張してくる心配だった。それでも、撮影中から少しずつアイデアを話してくれるようになり、編集の作業を始める頃には、意見を出し合える関係になれた」と笑顔で語ります。

10月、動画の編集作業も大詰めを迎え、活動が作品として形になり始めました。生徒たちの表情にも自信が表れ、動画に対してこだわりを持つようになりました。その様子を見た大久保さんは「大事なことは『誰が動画を作ったのか』じゃなくて、『誰のために、何のために作るのか』じゃないかな」と語りかけました。その言葉を聞いた生徒たちは、改めて保存会の願いを見つめ直し、自分たちのこだわりを抑えながら、徳山の盆踊の魅力が詰まった動画を完成させました。

1月20日、川根高校で開かれた動画とのれんのお披露目式。保存会会長の奈良間六明さんと事務長の上野信吾さん、西田稔さんが招かれました。緊張の1分33秒。生徒たちは固唾を飲んで、三人の反応を待ちました。動画を見た上野さんが口を開きます。「おもしろい! 私たちでは考えつかないアイデアが詰まっていて、これまで芸能に興味がなかった世代にも知ってもらえると思う」と笑顔で話しました。その言葉に胸をなで下ろした生徒たちの表情には、達成感があふれていました。

動画のお披露目 挑戦の先に見えたもの

生徒たちが制作した動画は、町公共施設や町観光協会で放映されるほか、川根高校公式ユーチューブなどで公開されます。下記QRコードにアクセスしてご覧いただけますので、生徒の思いや工夫が詰まった動画をぜひご覧ください。



生徒たちの1年を振り返って

1_ 絵コンテ。動画制作は構成を練るところから始まった
2_ 練習風景。鹿ん舞に初めて挑戦
3_ 大久保さん(左)と映像を確認。ごちない姿に苦笑い
4_ 撮影の一幕。茶畑の中で
5_ 編集作業も大詰め。こだわりを詰め込む
6_ 動画制作と平行して製作したお茶で染めた上げたのれん。3月19日まで大井川鐵道駿河徳山駅で飾られている。

interview 『徳山の盆踊』を発信する人たち



(後列左から) 中村 春暁さん
田中 陽登さん 鈴木 秀人さん
(前列左から) 勝俣 成礼雅さん
市川 愛夢人さん

私たちが制作した動画をぜひ見てください

保存会の「芸能を次代に継承したい」という思いを形にするべく動画制作が始まりましたが、失敗できないとプレッシャーを感じていました。構成から撮影、編集と分からないことばかりでしたが、大久保さんや他のメンバーと協力し、完成させることができました。私たちの1年を詰め込んだ動画が保存会の活動の助けになれば

うれしいです。私は就職を機に川根本町を離れますが、この1年間の経験はきっと今後の人生にも役立つことと思います。そして、3年間を過ごした川根本町にいつか戻って、町の活性化や徳山の皆さんに何か恩返しができればと考えています。(勝俣成礼雅さん)



◀ 町公式ユーチューブチャンネルで大久保さんが制作した動画を視聴できます。



高校生との活動と並行して、私自身も徳山区の古典芸能をPRする動画を制作していました。その過程で、神楽などの練習に臨む子どもたちを撮影しましたが、楽しそうに取り組む一方で『なぜ舞うのか』を深く理解していないように見えました。芸能を認知してもらい、継承につなげるには高い芸術性が必要だと思います。保存会には、次代を担う伝承者とともに「神楽はなぜ存在するか」という歴史的な背景や根源的な意味を共有し、継承する目的を明確にして活動してほしいと感じました。また、演目の見せ方一つでファンは確実に増えます。舞台演出など力になれることがあれば、ぜひ協力したい。ふるさとの芸能の継承の一助になりたいと思っています。



創形美術学校
おおくぼ 榛菜さん
大久保 榛菜さん